

人と人との触れ合いを大切にする 地域密着型の鍼灸整骨院

■平成15年に開院した「しおかわ鍼灸整骨院」。腰痛や肩コリ、五十肩や腱鞘炎、膝痛の他、骨折や脱臼、打撲、ねんざなど、様々な症状・痛みを改善してくれるとあって地元を中心にして高い評価を得ている。本日はそんな同院にタレントの渡辺めぐみさんが訪問した。



人間らしさを大切にしたい 心温まる院を作り上げたい

渡辺 院長はこの道一筋に歩いてこられたのですか？

塩川 いえ、学業修了後は様々な職種を経験しました。24歳のころにはエステサロンを立ち上げたこともあるのですよ。この仕事に興味を持ったのは現場に出て人と触れ合う仕事がしたいと思ったからです。エステサロンの経営者からこの道へと方向転換を図ったのも、もっと現場に出て人と接する仕事がしたいと感じたからなんです。それで鍼灸専門学校に進学し、在学中から鍼灸院や整形外科で経験を積みました。そして、平成15年に地元にて当院を立ち上げた次第です。

渡辺 鍼灸や整骨の仕事にはもともと興味があったのですか？

塩川 東洋医学には漠然とした興味はありましたが、それほど詳しく知っているわけではありませんでした。むしろ、東洋医学というのは漢方薬などを使用して、西洋医学で治らなかった病を治していく世界だというイメージを持っていた

のです。確かに東洋医学はそういう面も持ち合わせているのですが、当たり前ながら市井の整骨院の現場では全く違います。私は大それたことではなく、利用者さんと触れ合える身近な施術にやりがいを見いだしたんですよ。

渡辺 具体的にお聞かせ下さい。

塩川 自分の身近なところにやるべきことがあるのです。毎日来られるおばあさんに「院長に診てもらったら階段を上がるようになりました」などと言われるのが本当に嬉しくてね。そうした一言が聞きたいために毎日現場に出ていると言っても過言ではありません。それに、そうした経験があったからこそ、地域の人を元気にしたいという思いが強くなりましたし、一生の仕事にしたいと思うようになったのです。



渡辺 現場主義を貫いておられるのですね。

塩川 現場は人と人との出会い、触れ合いの場ですからね。ですから当院は人間らしさを前面に押し出した整骨院にしたいと考えております。デジタルな時代だからこそ人間にしかできないことをやっていきたいのですよ。技術の研鑽も大事ですが、たとえば挨拶1つや細やかな気遣いなども大切だと考えています。それが設備や技術だけでは決してカバー出来ない人間らしさの魅力だと思いますからね。

渡辺 そうした考え方はスタッフの方にも日ごろから仰っているのでしょうか。

塩川 いえ、素晴らしいスタッフが揃っていますので言う必要もないんですよ。指示したわけではないのに自分たちでギブスの材料を買ってきてギブスを巻く練習をしているようなスタッフたちですからね。そうした姿を見ると嬉しくもあり、頼もしく感じます。

渡辺 どういったことを大切にして日々の仕事に取り組んでおられるのですか？
塩川 常に利用者さんの身体全体の状態にアンテナを張り、自己中心的な施術を行わないことですね。施術を始めたころは利用者さんの痛みをとろうという思いが強すぎて、「このような痛み

Guest Interviewer

渡辺めぐみ (タレント) 「これからも地域密着で頑張ってください」



塩川院長は人と接するのがとても楽しく、やりがいになっていると仰っていました。そうした気持ちがたくさんの人から高い評価を得ている要因になっているのでしょうか。これからも地域のために頑張ってくださいと思います。